

< 6/20数值修正版 >

2007年3月期連結決算について

2007年5月31日
日本板硝子株式会社

本日のご説明項目

- 07年3月期の振り返り
- 07年3月期決算の概要
- 新NSGグループの概要
- 各事業別の概況と今期の見通し
- 中長期戦略の中での位置づけ
- 今期の業績見通し

07年3月期の振り返り

1. **ピルキントン社買収による第2四半期以降の同社連結化。当社事業規模が大きく変化。**
2. **昨年11月、今後10年の3フェーズ長期ビジョンと向こう4ヵ年の新中期計画を策定、公表。**
3. **今年4月より、両社組織の統合化が予定通りスタート**
4. **一過性の特損特益処理のほか、EU過料引当等による、業績予想の修正。**
5. **グローバル規模での板ガラス事業の力強い成長と好調なビジネス環境は、依然として継続**

2007年3月期決算の概要

07年3月期決算の前提

1. 損益計算書ベースでは、ピルキントン社は第2四半期から連結化。
貸借対照表ベースでは、第1四半期末から連結化。
08年3月期は、ピルキントン社業績がフルに寄与。(添付参考資料)
2. これによる当期からの事業別、所在地別セグメントの変更 (添付参考資料)
3. 買収完了後のピルキントン社B/Sの再評価と、これによる
暖簾代(営業権)、無形固定資産の計上および償却。加えて、
EU過料引当額の買収完了時点(06/6末)価値を暖簾計上し、償却。
(添付参考資料)
4. 豪州地域については、非継続事業会計処理し、特別利益に表示。
5. ピルキントン社P/Lの連結反映時の円ポンド換算為替レート
中間、3Q時：各決算期末のレートによる期初からの損益業績の換算
(中間決算時レート 221.25円、3Q決算時レート 233.7円)
今回の本決算以降：期中平均レートによる換算
(06年7月～07年3月の間の平均レート 225.7円)
07/3期・当初計画前提レート 210円、08/3期計画前提レート 215円



連結損益計算書

(単位:10億円)	06/3	07/3	前期比	07/3 当初計画
売上高	265.9	681.5	256.3%	680.0
暖簾等前営業利益	8.4	43.3	514.0%	43.2
(暖簾等前営業利益率)	3.2%	6.4%	-	6.4%
暖簾、無形資産償却	-	19.5	-	8.2
営業利益	8.4	23.8	282.6%	35.0
(営業利益率)	3.2%	3.5%	-	5.1%
営業外損益	2.0	-15.8	-792.6%	-10.0
経常利益	10.4	8.0	76.7%	25.0
(経常利益率)	3.9%	1.2%	-	3.7%
特別損益	1.1	30.1	2707.7%	36.5
税引前当期利益	11.5	38.1	329.9%	61.5
税引後当期利益	7.8	12.1	155.8%	30.0
(当期利益率)	2.9%	1.8%	-	4.4%
EBITDA	21.4	85.1	397.7%	-
1株あたり当期利益(円)	17.5	18.1	103.5%	-

1. 売上、暖簾等前の営業利益
 ビルキントン分は1Qは持分利益、2Qより連結化。非継続事業会計処理(豪州)の影響も反映後、当初計画並み。

2. 暖簾償却 約91億円、
 無形固定資産償却 約103億円
 税効果(税金負債の戻し) +31億円

3. EBITDA
 前期比大幅増。暖簾等償却前利益と同様に、ほぼ想定通りの実績。

07年3月期ポンド円レート	当初計画:210.0円
	実績:225.7円
08年3月期	前提:215円

営業外損益、及び特別損益

1. 営業外損益	158億円	(当初計画比	58億円)
金融収支	166億円		
持分法投資損益	+24億円	(前半期のNHテクノの不調など)	
その他雑損益	18億円	(EU経過費用 30億円)	
2. 特別損益	+301億円	(当初計画比	65億円)
株式売却益	+448億円		
買収関連費用	105億円		
固定資産除却損	73億円	(情報システムなど)	

連結貸借対照表

(単位:10億円)	2006年 3月期	2007年 3月期
流動資産	288.7	465.8
(うち、現預金)	(180.7)	(160.9)
固定資産	307.2	943.1
総資産	596.0	1,409.0
負債	354.4	1,058.4
(うち、有利子負債)	(236.9)	(561.1)
資本(純資産)	238.3	350.6
負債・資本計	596.0	1,409.0
期末発行済株数(百万株)	443.0	668.4
株主資本比率	40.0%	23.9%
BPS(円)	537.9	504.6
1株当り配当(円)	6.0	6.0
ROE	3.3%	4.2%
ROA	2.0%	2.2%

ROA=(経常利益+支払利息)/総資産

- 1.ピルキントン 1Q末より連結化
2. CB残 230億円(MSCBは全て転換済み)
3. 期末暖簾残 2,049億円
(EU引当金計上分 781億円を含む)
期末無形資産残 1,770億円
(07/3末円ポンドレート 231.9での換算ベース)

財務指標 (07/3末実績vs.統合直後06/6末)

- Net D/E ratio- 1.19 (vs.1.93@ 06/6末)
- Gross D/E ratio- 1.66(vs.2.51@ 06/6末)

- Net Borrowings - 4,000億円(vs.5100億円@06/6末)
- Gross Borrowings- 5,611億円(vs.6640億円@ 06/6末)

- EBITDA- 851億円 (vs. 214億円@06年3月期)

財務健全性は向上

当期売上高、営業利益実績の事業別地域別マトリクス

売上高		(10億円)	日本	欧州	北米	その他	合計	
(単位:10億円)	建築用		109.9	152.2	25.3	32.9	320.4	
	自動車用		59.9	127.3	61.2	19.8	268.2	
	その他	情電		-	-	-	-	45.3
		繊維		-	-	-	-	33.3
		その他		-	-	-	-	14.3
		56.2	14.7	1.1	21.0	92.9		
	合計		226.1	294.2	87.6	73.7	681.5	

営業利益		(10億円)	日本	欧州	北米	その他	合計	営業利益率	
(単位:10億円)	建築用		0.9	22.5	0.9	5.3	16.5	5.1%	
	自動車用						13.0	4.9%	
	その他	情電		-	-	-	-	2.5	5.5%
		繊維		-	-	-	-	3.6	10.9%
		その他		-	-	-	-	-11.8	-82.8%
		-0.5	-6.8	0.0	1.6	-5.7	-6.1%		
	合計		0.4	15.7	0.9	6.9	23.8	3.5%	
	営業利益率		0.2%	5.3%	1.0%	9.3%	3.5%		

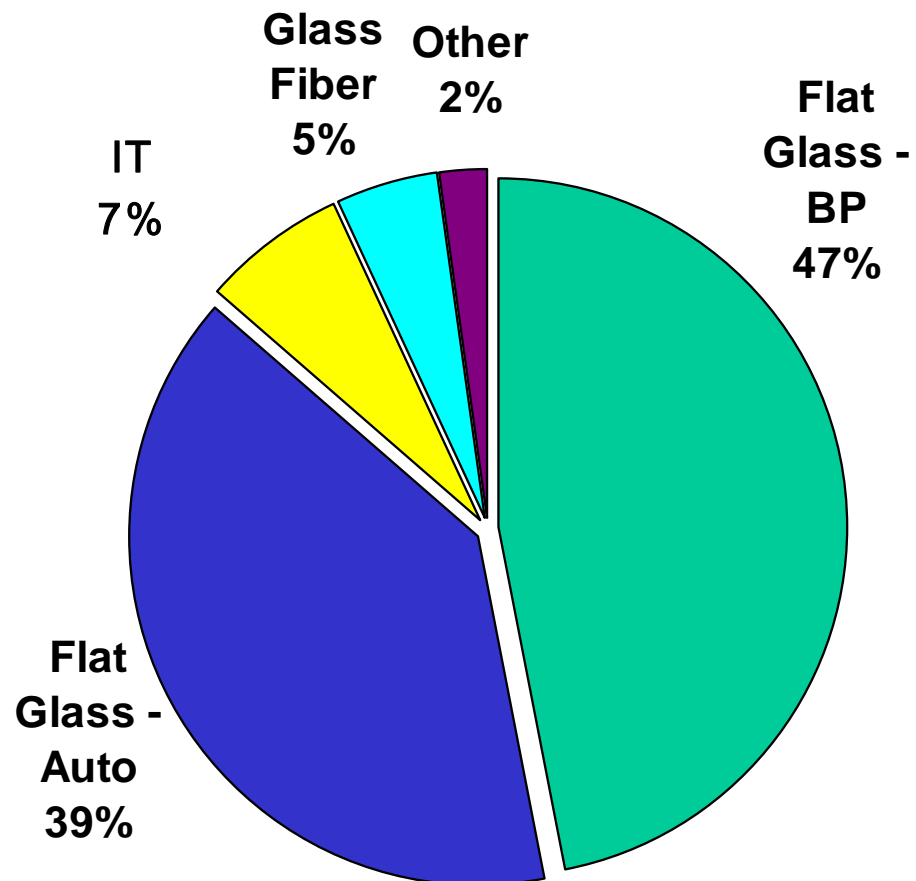
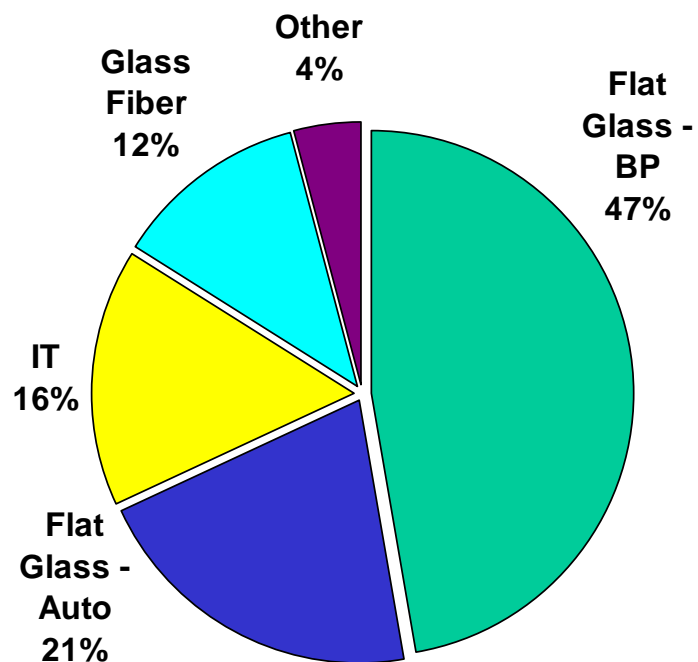
(注) 暖簾代、無形固定資産償却費は各地域、各セグメントに配賦済み

新NSGグループの概要

統合の影響 - 事業別売上高

07年3月期 (6,815億円)

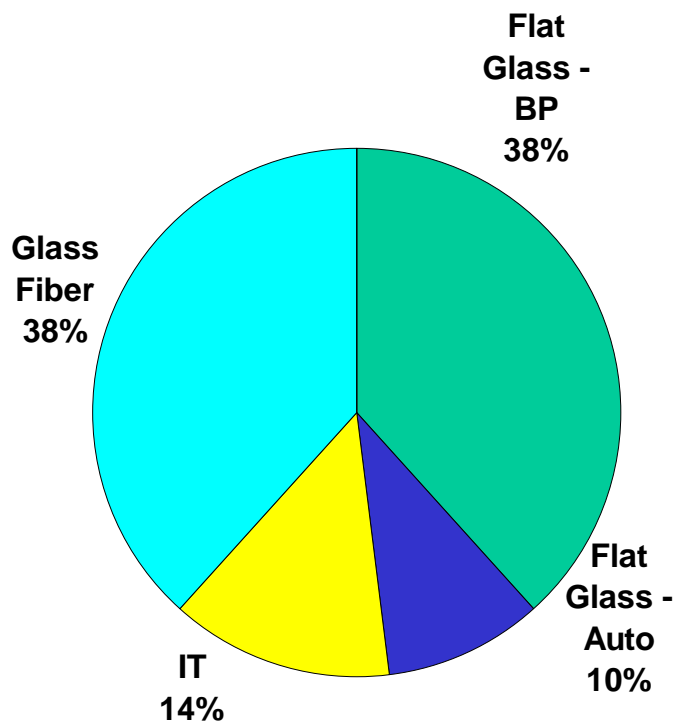
06年3月期 (2,659億円)



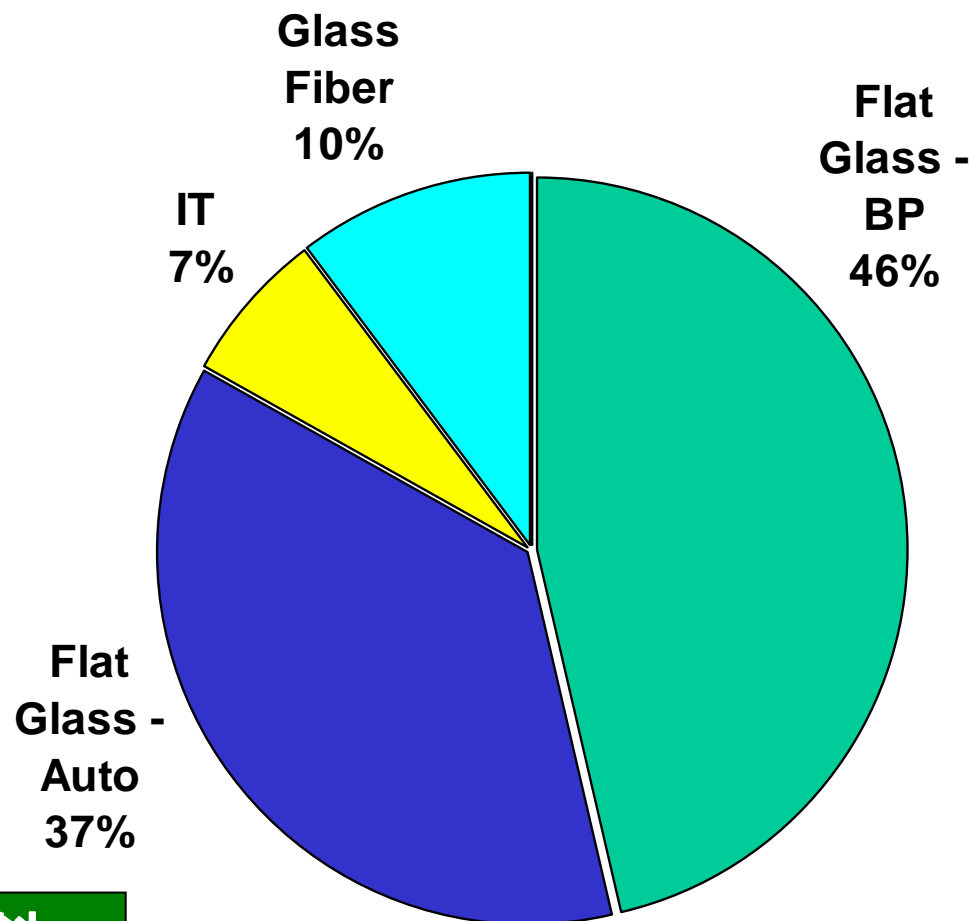
Flat Glassに傾斜

統合の影響 - 事業別営業利益

06年3月期 (84億円)



07年3月期 (238億円)



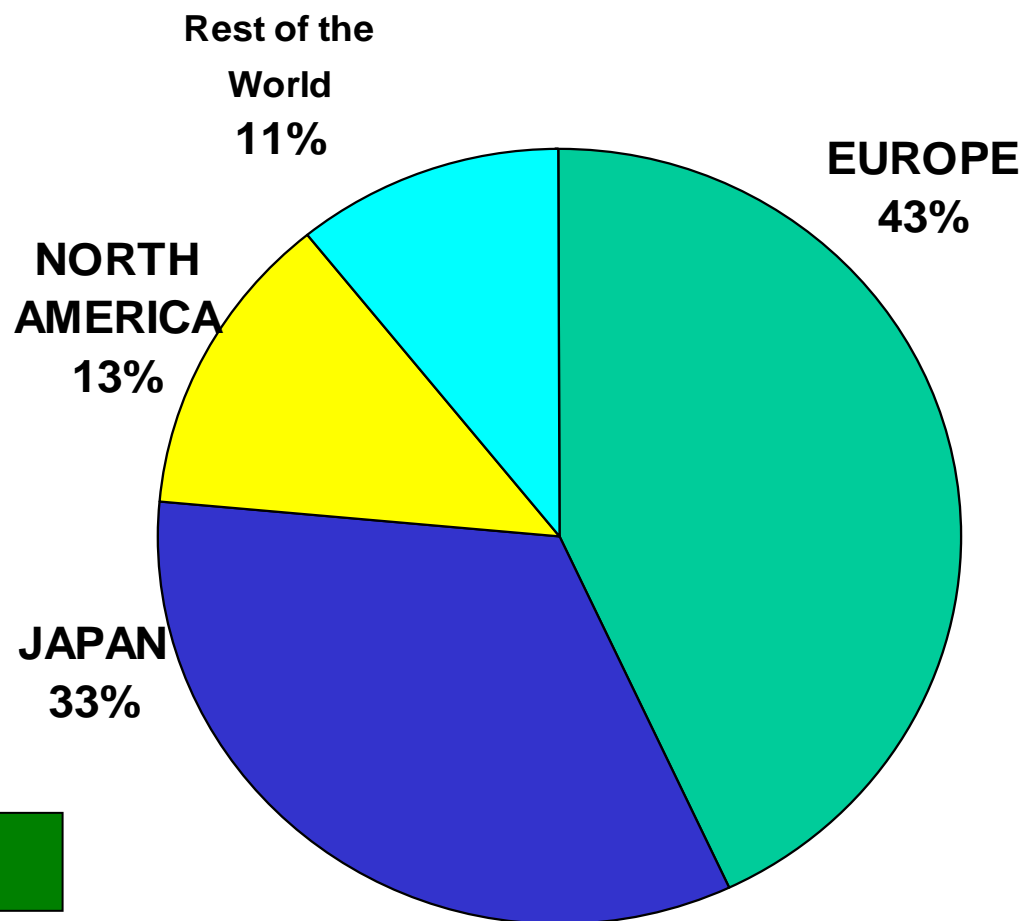
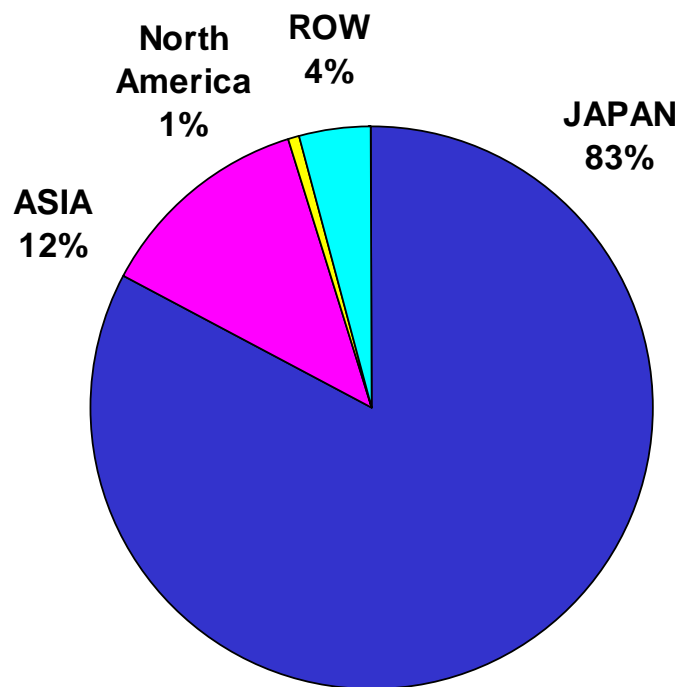
利益構成もFlat Glassに傾斜

(注) 其他事業の赤字分はグラフ中には含まず

統合の影響 - 地域別売上高

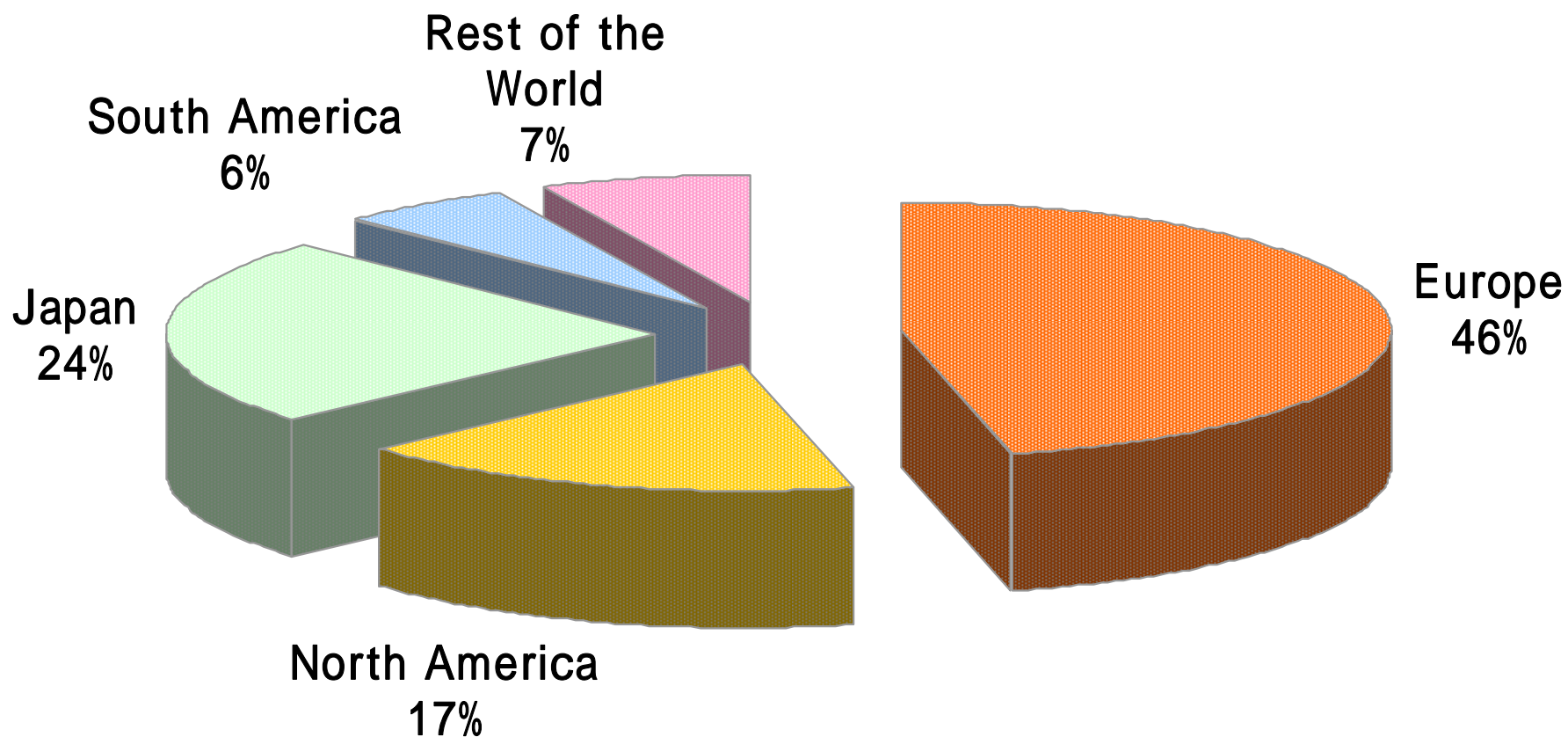
07年3月期 (6,815億円)

06年3月期 (2,659億円)



地域バランスの向上

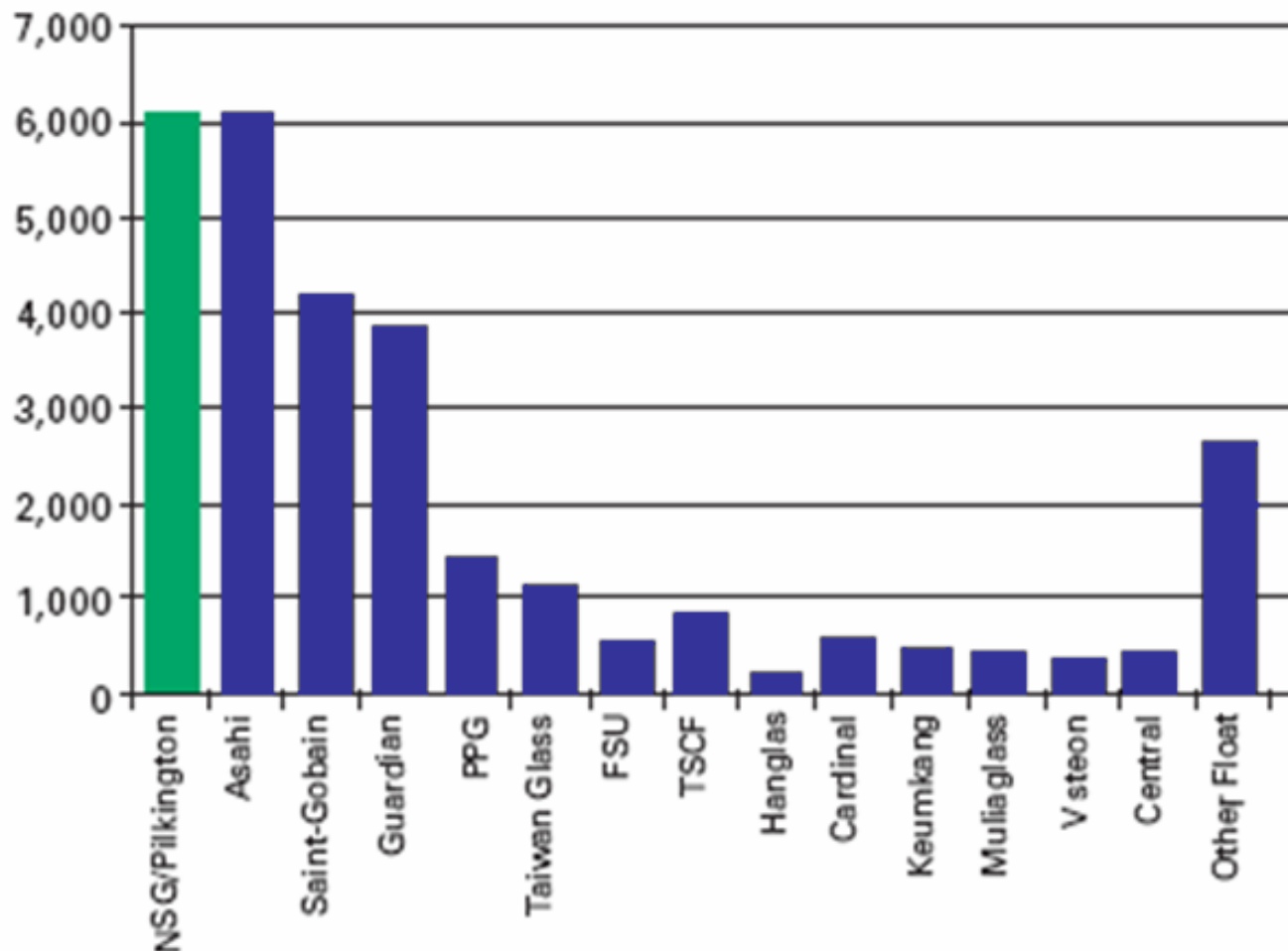
板ガラス事業地域別売上高比



板ガラス分野で欧州が最大に

世界の高品質フロート生産能力

(千トン/年)



Major increase in scale

各事業別の概況と今期の見通し

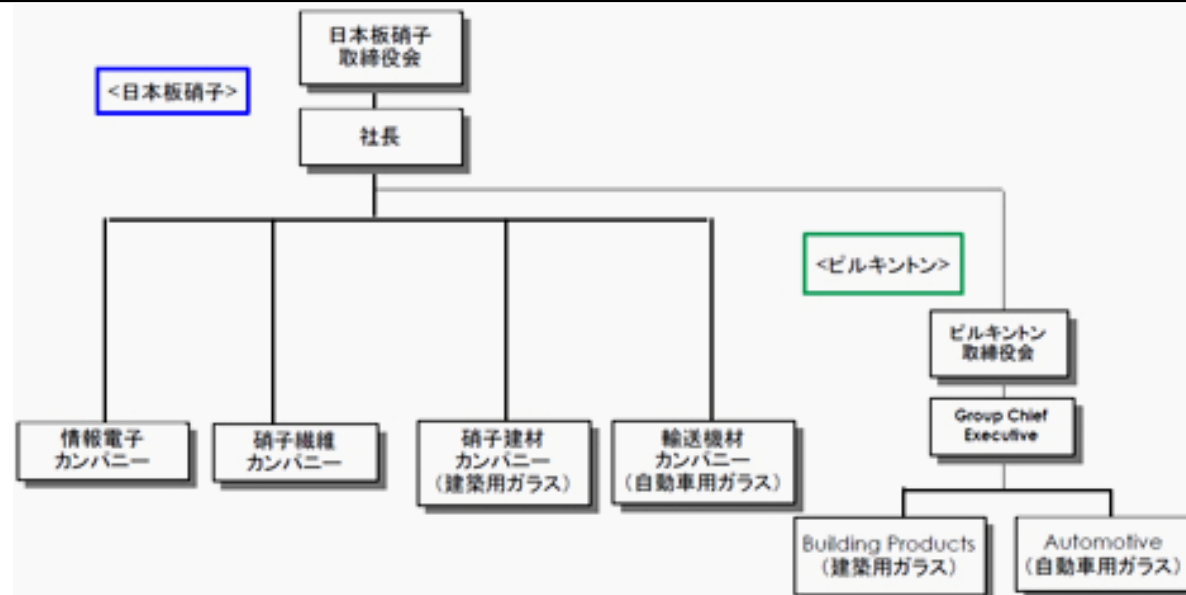
4月からの新組織について

- 2007年4月より、組織改変により、NSG/Pilkingtonの全世界板ガラス事業をグローバルフラットガラス事業として統合。
- これにともないグローバル本社部門を設置
- 情報電子 + 硝子繊維事業をSpecialty Glass事業として統合
- BP部門については地域別組織
 - Europe
 - Japan
 - North America
 - South America
 - Australasia
 - South East Asia
- Automotive部門については事業別グローバル組織
 - Original equipment (OE)
 - Aftermarket (AGR)
 - Specialised Transport (Bus, Truck, Marine etc)

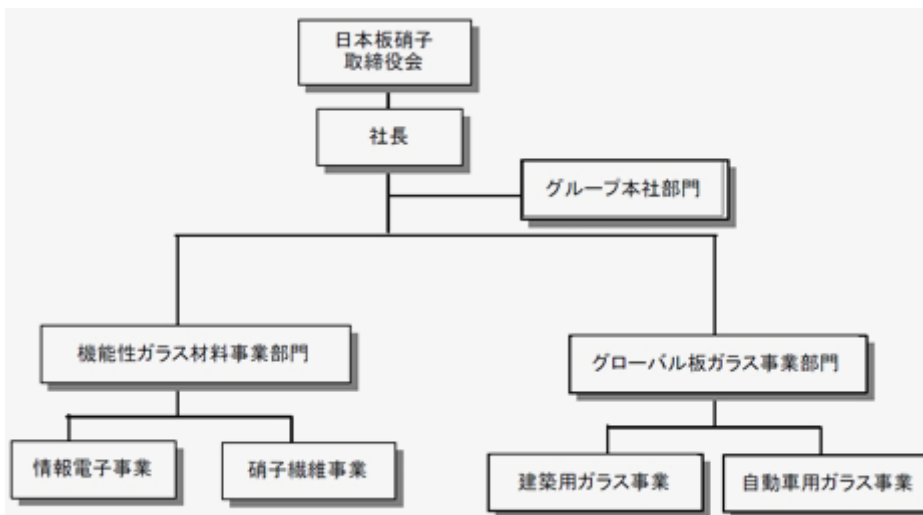
Integrated Flat Glass business now operational

新組織図

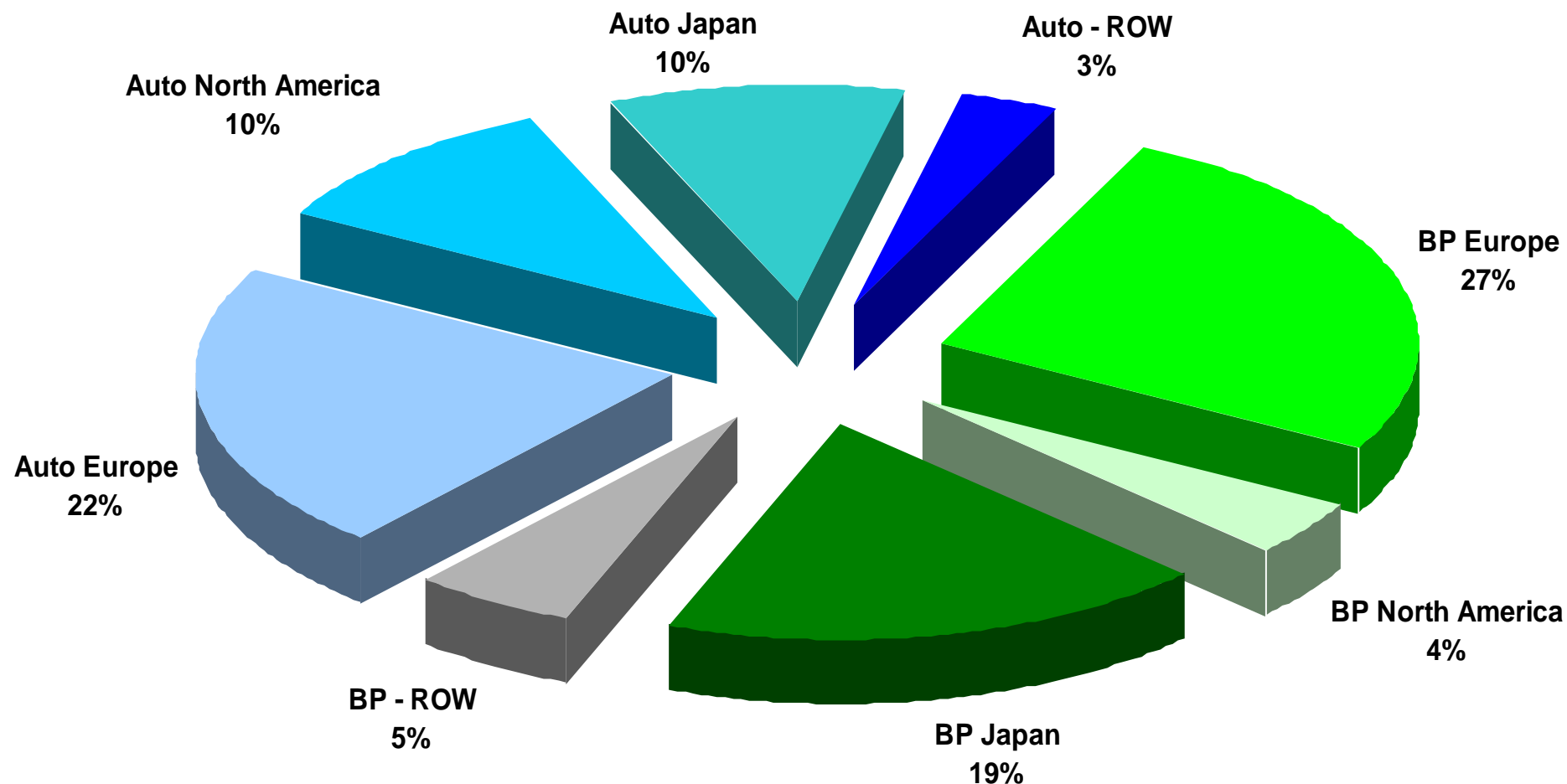
2006年度末までの組織



2007年度からのグループ運営体制

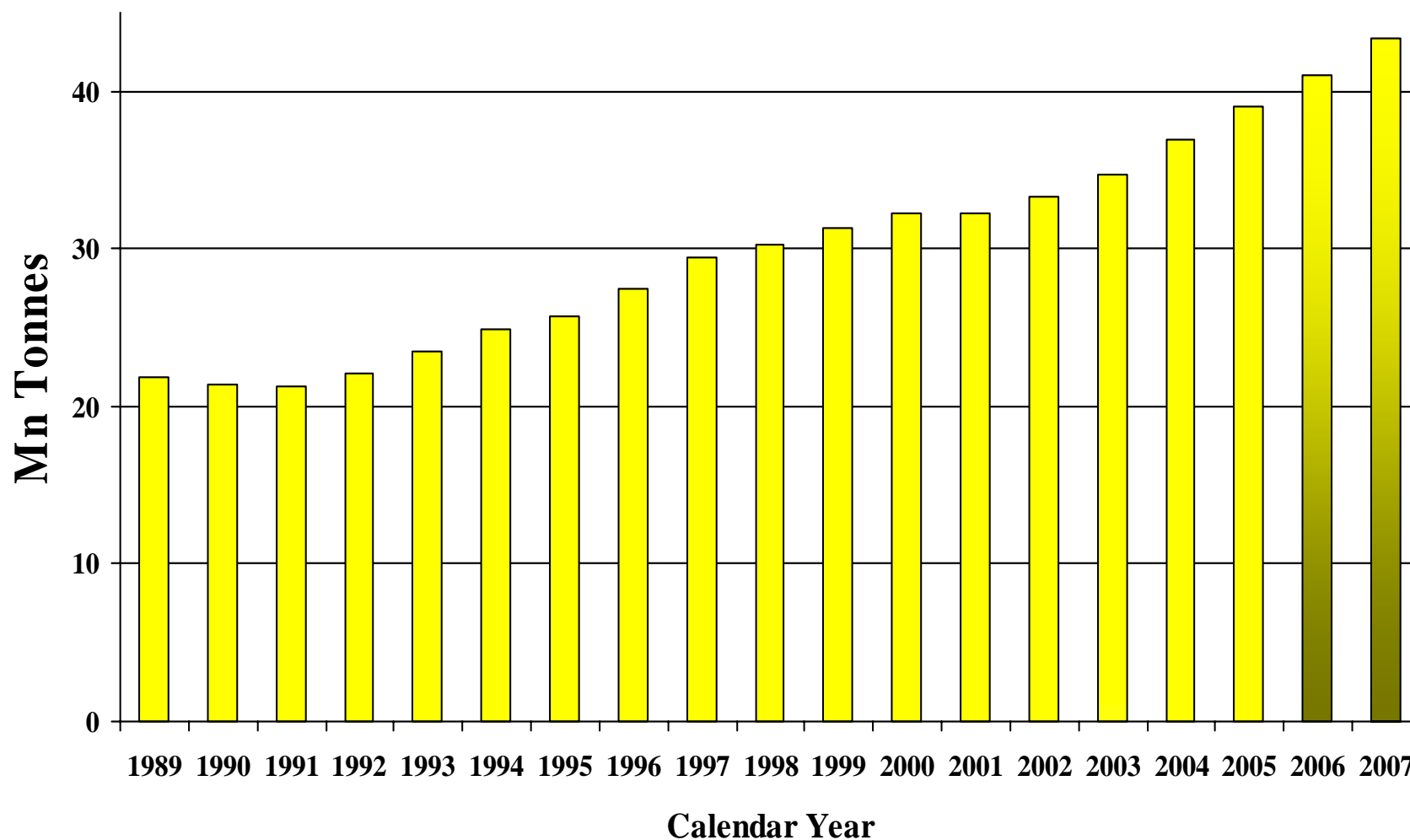


07年3月期 – 板ガラス事業売上高



BP Europe が最大部門

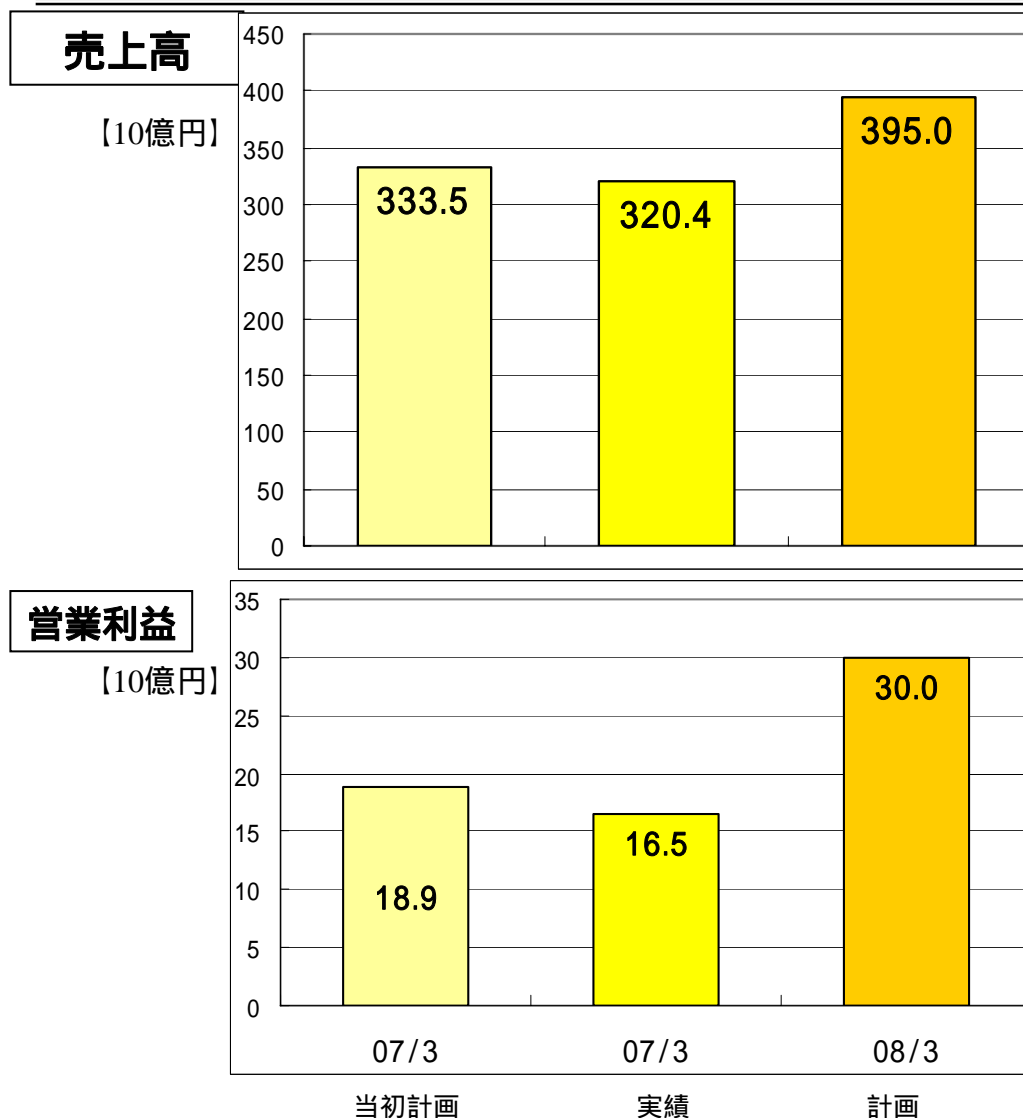
板ガラス需要-全世界



新興市場が牽引する安定的拡大

* Worldwide including China

建築用ガラス事業 概況



< 欧州 >

市場環境の活況により好調。ドイツ、イタリア、ポーランドなどで好業績。

< 日本 >

高機能ガラスの出荷増あるも、重油高、型板ガラスの生産調整等の影響で減益。

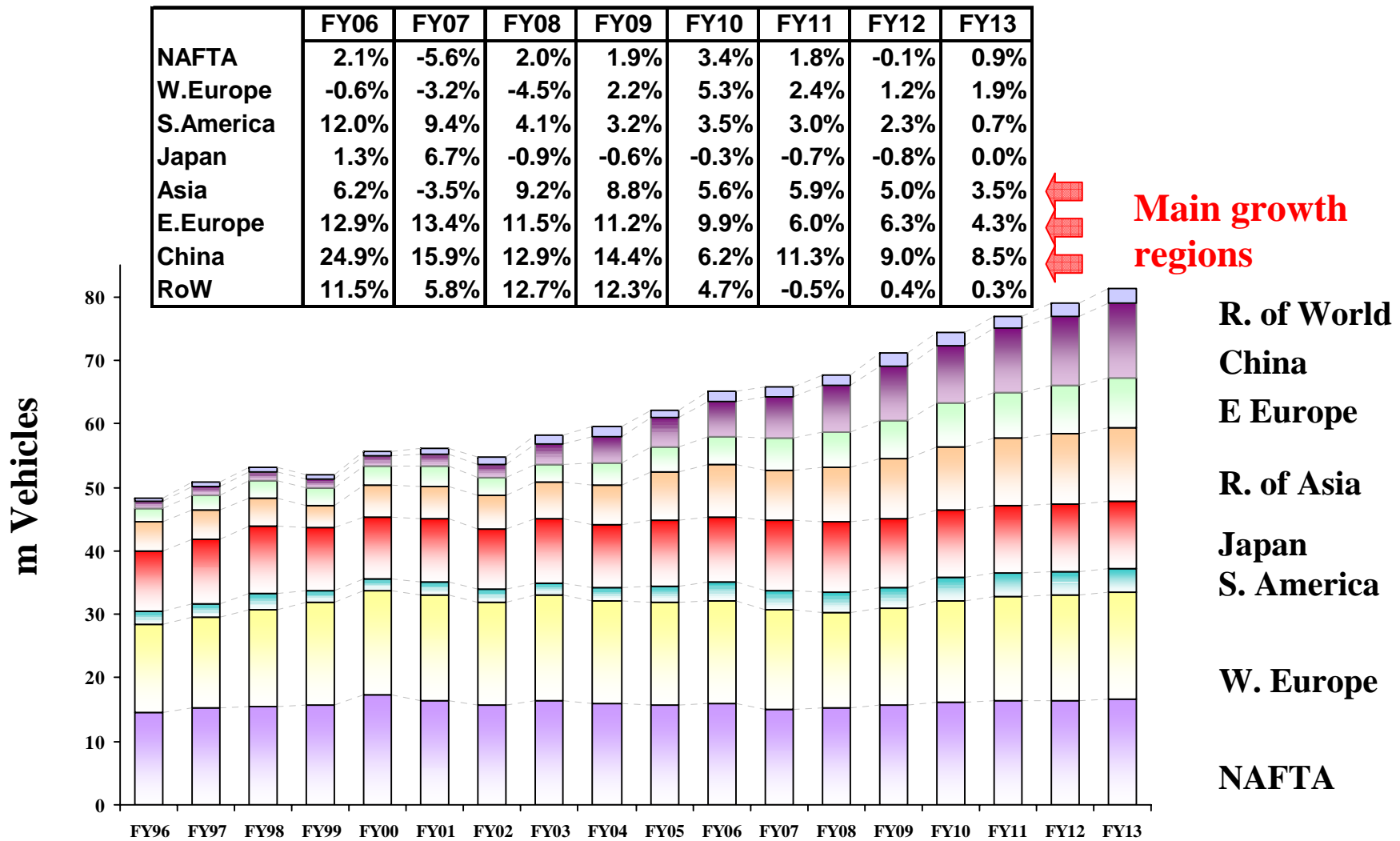
< 北米 >

国内需要弱まったが、域外への輸出(中米、中東、中国、欧州)が一部補完。

< その他 >

南米地域が好調を牽引。

世界の乗用車組立台数(2% ~ 4.5%p.a.)



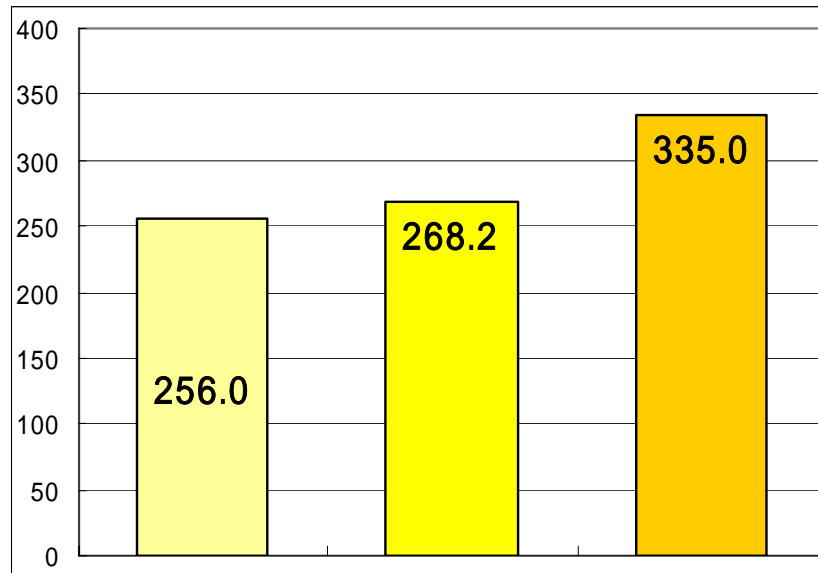
Data source = JDP Dec 06

Vehicle build remains strong

自動車用ガラス事業 概況

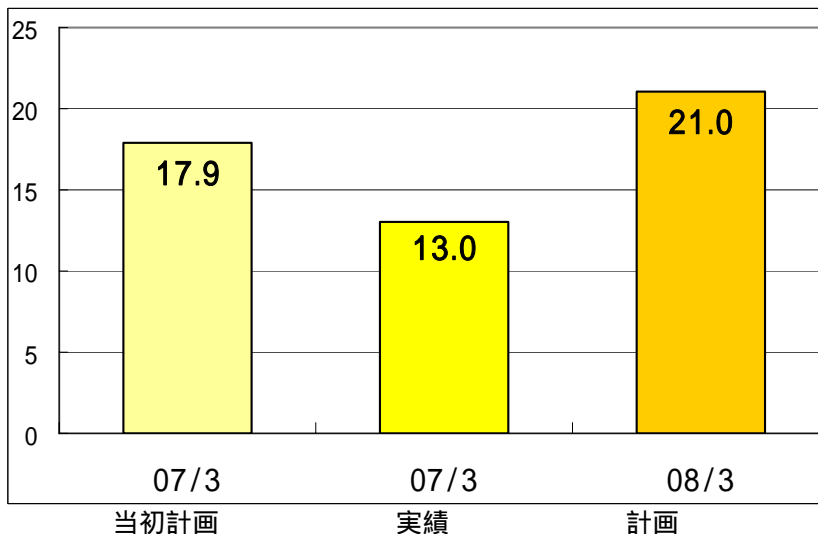
売上高

【10億円】



営業利益

【10億円】



< 欧州 >

域内自動車販売は横ばいの中、当社が納入するガラスが好調。AGR(補修ガラス)も好調。

< 日本 >

国内自動車生産が好調継続。

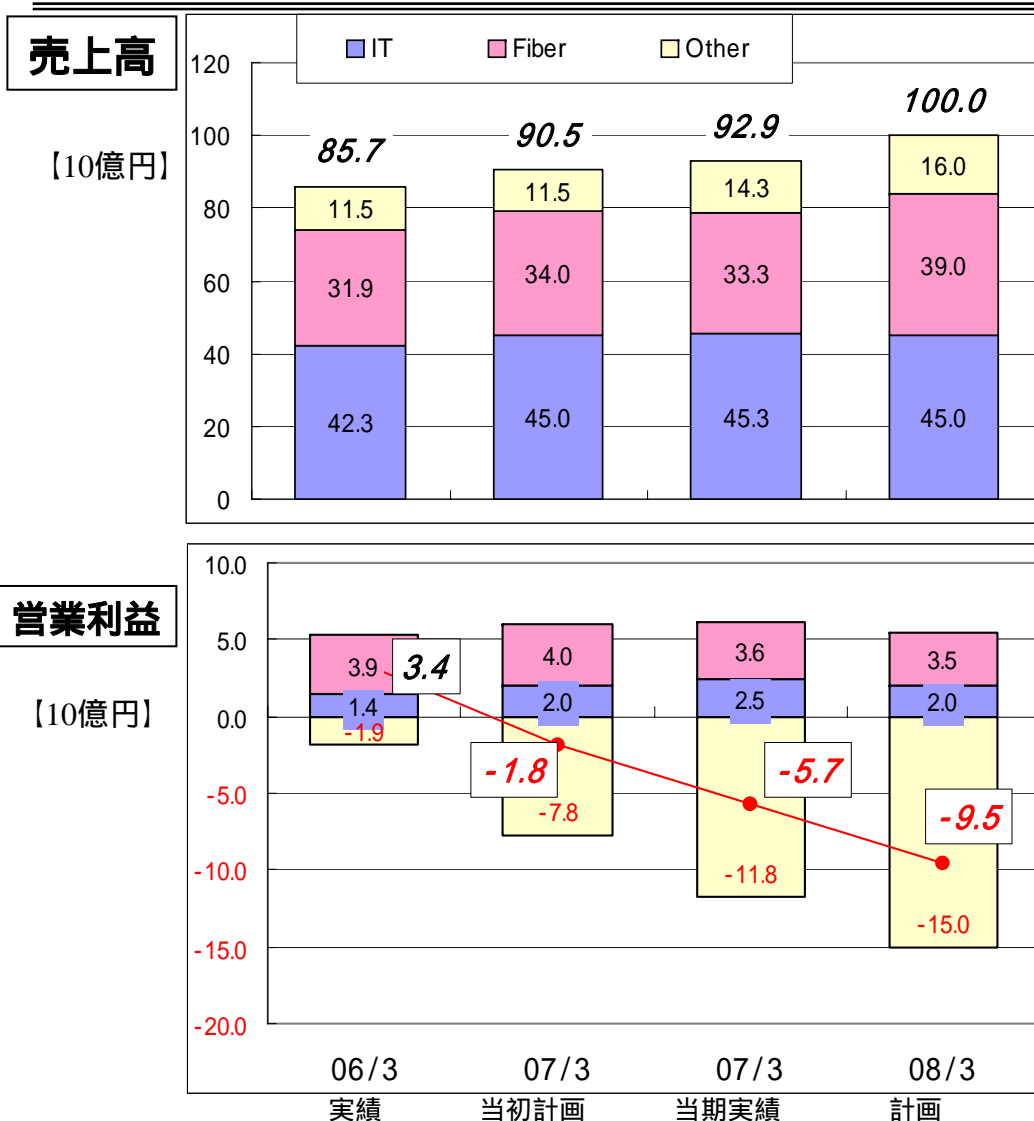
< 北米 >

OEは域内自動車生産減少の影響を受ける。AGRでは競争環境と燃料コスト増が影響。

< その他 >

南米地域が好調を牽引。中国では市場拡大中。

その他事業(情報電子、硝子繊維、他) 概況



< 情報電子: 前期比 増収増益 >
 インクジェット複合プリンタ向けレンズは順調な伸び。中小型液晶(STN,TN)用ガラスの需要も当面底堅く推移。

TFT液晶ガラス(持分適用会社: NHテクノグラス)
 生産性改善で、年間では黒字化。
 韓国で7G基板生産開始。

< 硝子繊維 前期比 増収減益 >
 ゴムコードは欧州向けが牽引。
 メタシャインの販売も反転回復基調。
 フィルタがやや失速さみ。

< その他 >
 システム関連費用をはじめとする
 本社費用、及びエンジニアリング収益。

中長期戦略の中での位置づけ

長期ビジョン

3フェーズで、
着実に成長戦略を実行

新中期計画期間

フェーズ < 4年間 >

財務の健全性を回復させつ
つ、生産性・品質の向上に
重きを置き、他社との差別化
で新会社の強みを確立

フェーズ < 3年間 >

板ガラス事業の領域における
事業規模の拡大

- 新興市場への拡張投資による
地理的拡大
- 大型新商品の開発、R&D強化、
新しいテクノロジーの育成

フェーズ < 3年間 >

新事業の開拓による成長の持続
既存領域に限定せず、市場・顧客資産、
技術資産、事業資産を活用した近隣
事業領域、新商品領域への進展。
M&A、アライアンスなども活用。

◎ 日本板硝子

+



PILKINGTON

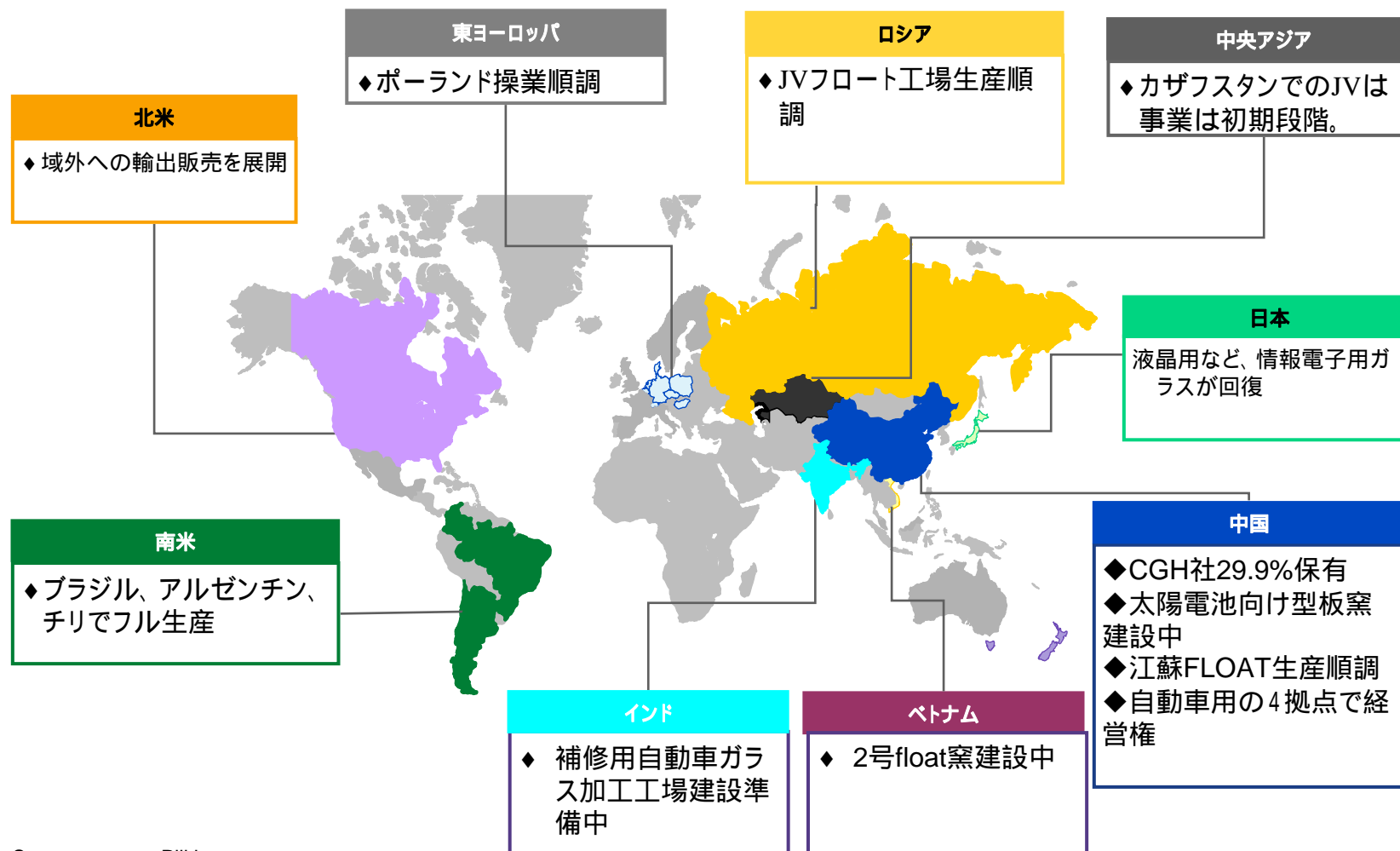
2007/4 ~

2011 ~

2014 ~

~ 2016

新興市場での展開



Source: Pilkington

Note:

1 Including manufacturing facilities of Pilkington's associates and strategic partners

今期の業績見通し

今期連結業績予想 - 1

(単位:10億円)	07年3月期実績	08年3月期見通し	11年3月期中期計画
(円ポンド換算レート)	¥225.7	¥215	¥200
売上高	681.5	830.0	900.0
暖簾等償却前 営業利益	43.6	66.7	75.0
暖簾等償却費	-19.5	-24.7	-20.0
営業利益	23.8	42.0	55.0
営業外収支	-15.8	-18.0	
経常利益	8.0	24.0	
特別損益	30.0	10.0	
税前利益	38.1	34.0	50.0
当期純利益	12.1	15.0	31.0
暖簾等償却前 当期利益	<u>28.5</u>	<u>35.8</u>	<u>46.0</u>
EBITDA	85.1	116.7	125.0
EPS(円)	18.1	22.5	46.4
暖簾等償却前 EPS(円)	<u>42.7</u>	<u>53.6</u>	<u>68.9</u>

中期計画へ着実な前進。中期計画への暖簾償却増の影響は対策を検討、実施。

今期連結業績予想 - 2 セグメント別内訳

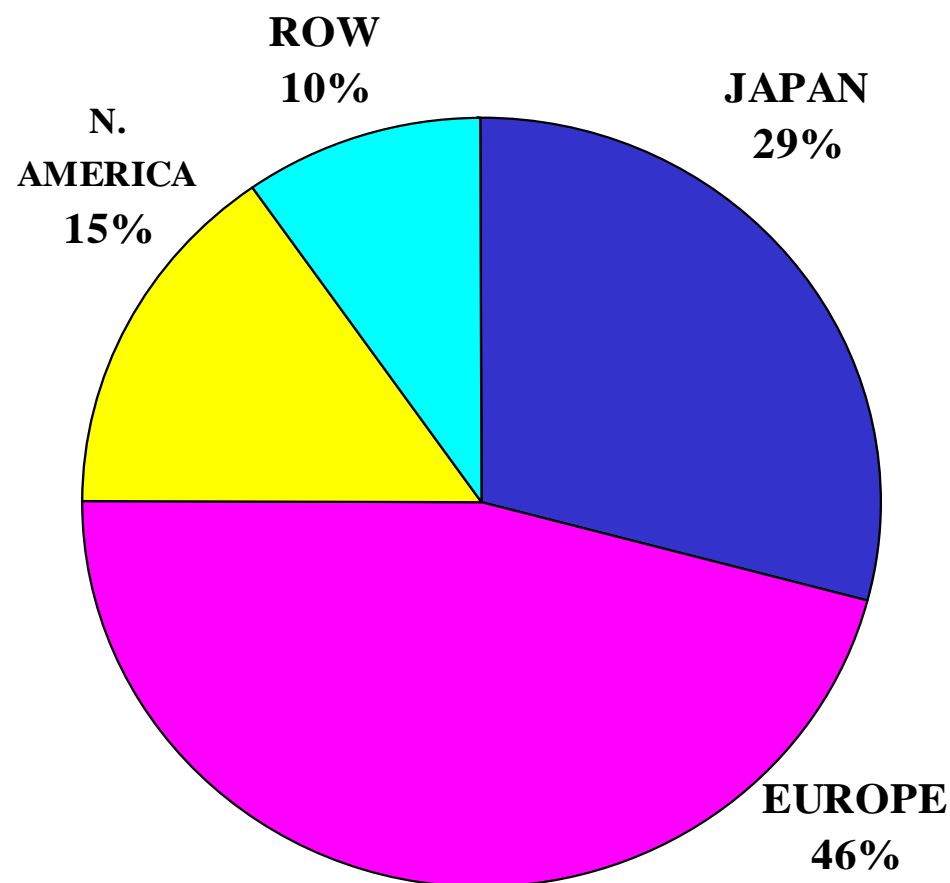
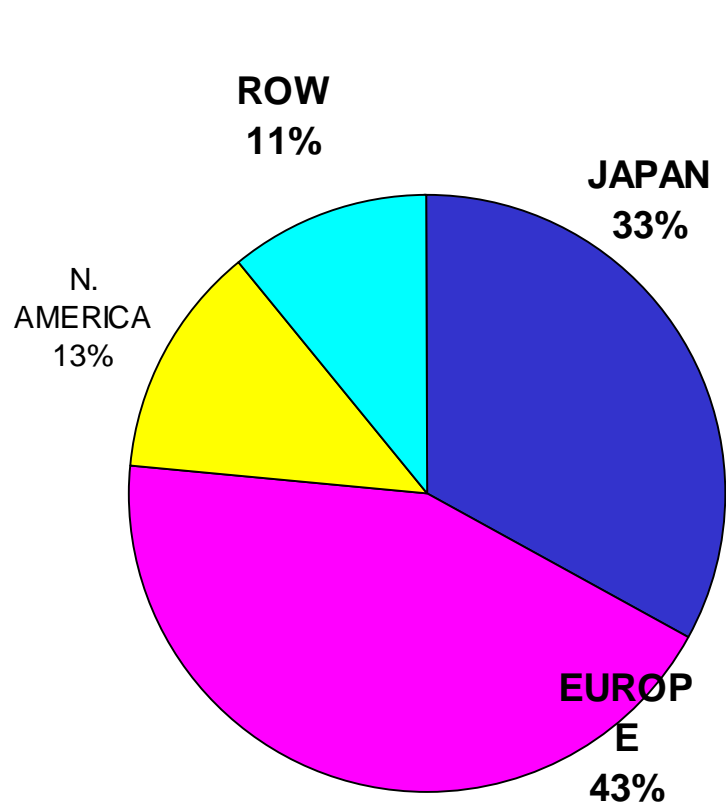
(10億円)

		07年3月期 実績	08年3月期 見通し	11年3月期 中期計画	
売上高	建築	320.4	395.0	435.0	
	自動車	268.2	335.0	365.0	
	その他	情報電子	45.3	45.0	60.0
		硝子繊維	33.3	39.0	40.0
		その他	14.3	16.0	0.0
		92.9	100.0	100.0	
	計	681.5	830.0	900.0	
営業利益	建築	16.5	30.0	53.5	
	自動車	13.0	21.0		
	その他	情報電子	2.5	2.5	10.0
		硝子繊維	3.6	3.5	
		その他	-11.8	-15.0	
		-5.7	-9.0	1.5	
	計	23.8	42.0	55.0	

今期見通し - 地域別売上高

08年3月期 (8,300億円)

07年3月期 (6,815億円)



Pilkingtong社連結9ヶ月 12ヶ月

まとめ

1. 事業規模の飛躍的拡大と、板ガラス事業の組織統合が順調にスタート。
2. 欧州、新興地域をはじめ、好況は継続。
3. 中期計画での目標達成を目指す。

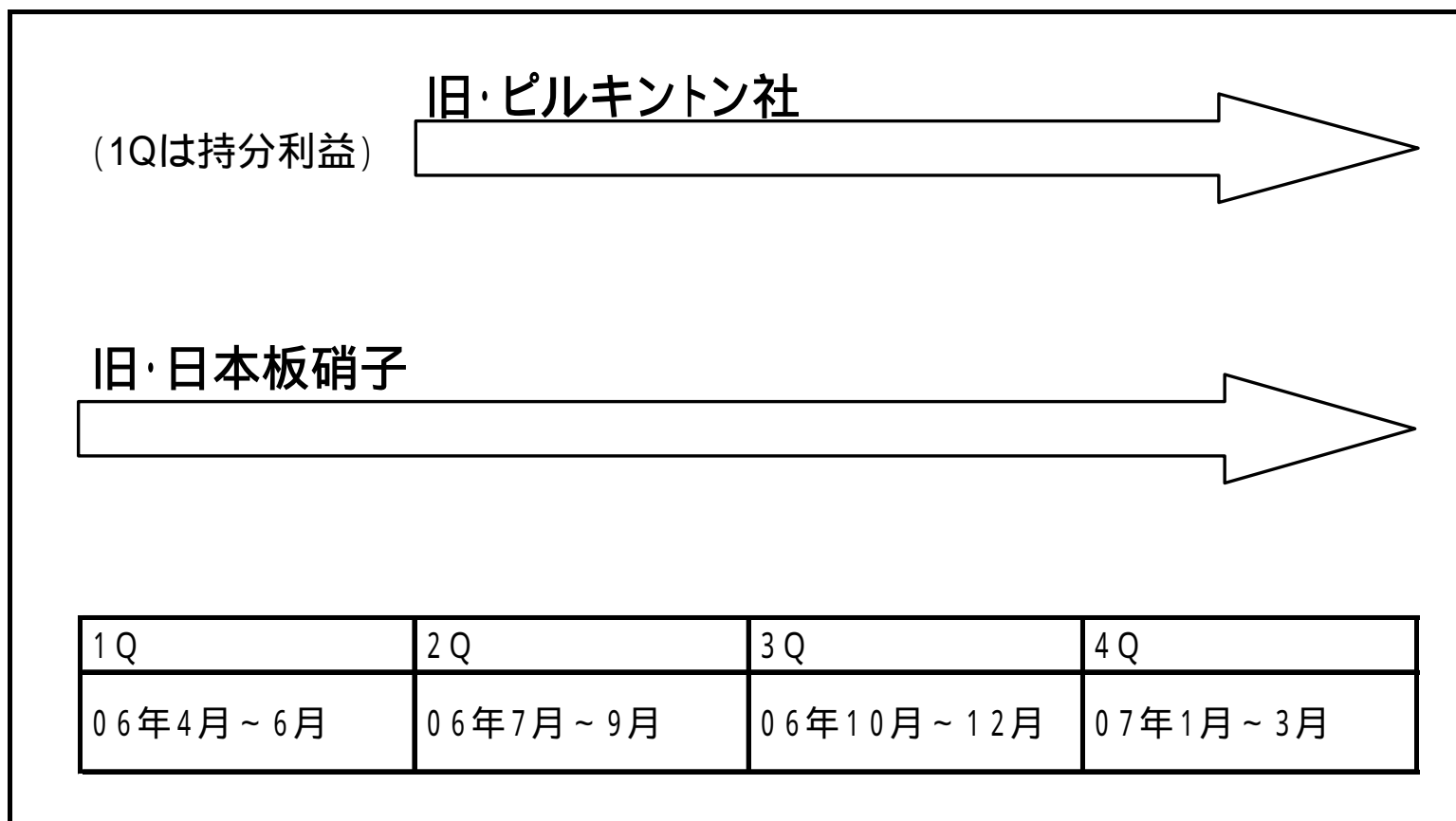
< 参考資料 >

< 参考 > 前提指標

		06/3 通期実績	06/9 上期実績	07/3 通期実績	08/3 通期 計画前提値
円ポンドレート(P/L換算)	(円/GBP)	205.2	221.3	225.7	215.0
(B/S換算)				231.9	
減価償却費 (注)	(10億円)	13.0	19.8	41.8	50.0
設備投資	(10億円)	21.2	18.4	52.5	50.0
研究開発費	(10億円)	7.6	5.1	13.7	-
フリーキャッシュフロー	(10億円)	3.3	-218.9	-246.3	-
有利子負債	(10億円)	236.9	636.1	561.1	-
人員	(人)	14,181	38,578	39,025	-

(注)ピルキントン社買収に関する暖簾代、無形固定資産償却
(07/3実績:約195億円)を除く。

< 参考 > 07年3月期決算の前提
 当期の損益計算書上の連結期間



08年3月期以降は、 Pilkington社業績が年間フルに寄与

< 参考 > 07年3月期決算の前提
事業セグメントの変更

前期までの
事業セグメント

当期以降の
事業セグメント

ピルキントン社上場時
の事業セグメント

硝子・建材事業	建築用ガラス事業	Building Products
情報電子事業	自動車用ガラス事業	Automotive Products
硝子繊維事業	その他の事業	Others
その他の事業		

同様に、地域別セグメントも変更

<参考> EU過料引き当てについて

1. 経緯

ピルキントン社による欧州委員会 (EU) 独禁法違反疑義に基づき、現地会計基準の要請に従い、本件による将来リスクとして想定される過料を引当て。金額の算定はEUから示されている過料算定ガイドラインなど、現時点での情報から総合的に判断して算出。手続き上は今後更に進展があり、EUの正式決定は9～12ヶ月後を想定。現時点でEUからは、過料額は示されていない。

2. 経理処理、暖簾への影響

推定過料額 総額 約3.5億ポンド(230円換算で約800億円)を暖簾計上し、既存分の暖簾と合わせて20年定額償却。

<07年3月期業績への影響>

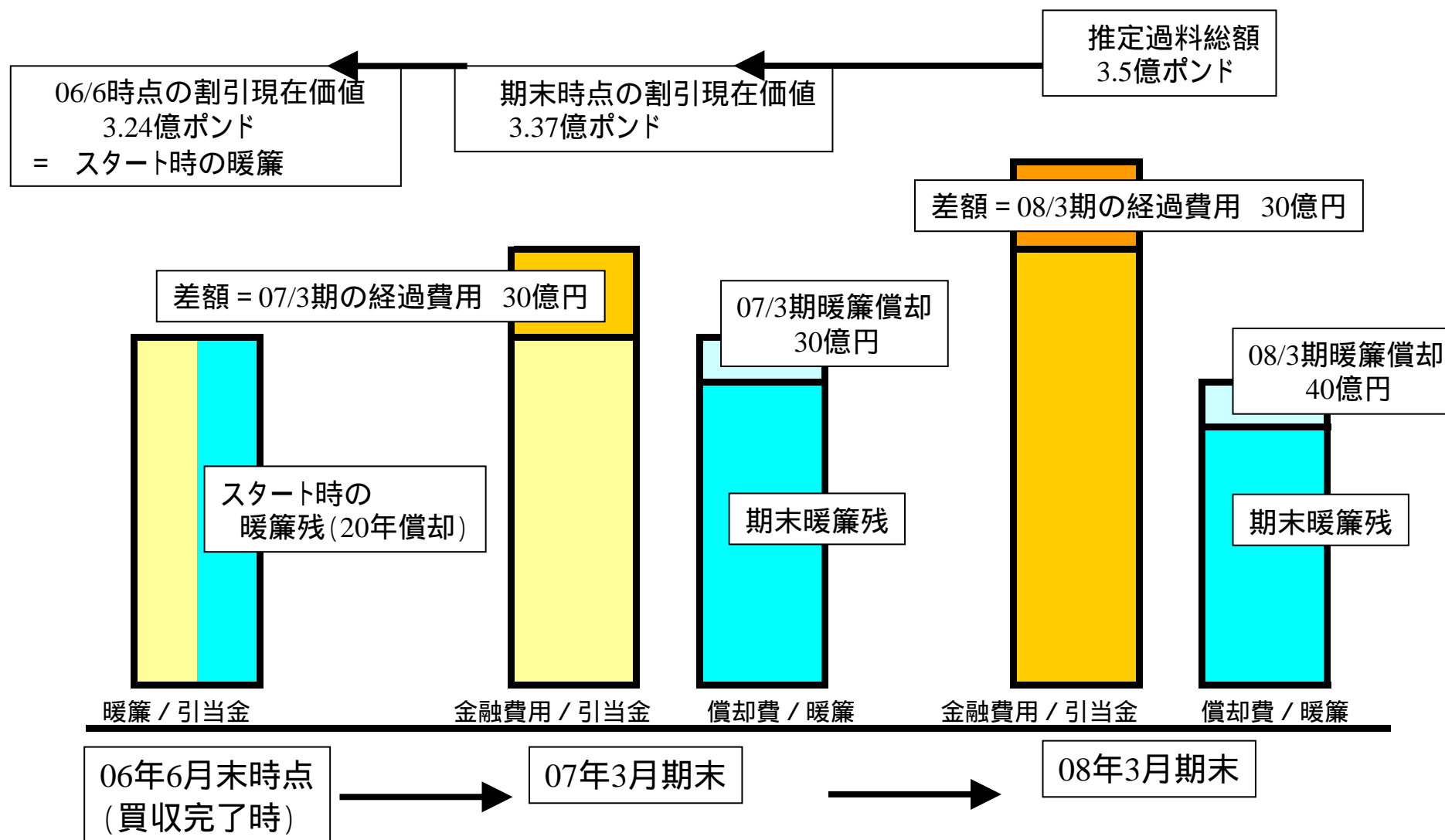
暖簾償却増(営業費用)として約30億円

(08年3月期以降20年間は年間約40億円)

3.5億ポンドの割引現在価値の当期分経過費用(雑損失)として約30億円

(08年3月期にも約30億円発生見込みだが、09年3月期以降は発生しない)

< 参考 > EU引当金の暖簾計上、割引現在価値の当期経過費用



< 参考 > 暖簾及び無形固定資産計上額の変化について

(単位:百万ポンド)	2006年6月時点 (当初計画)	2006年9月時点 (中間決算時点の見通し)	2007年3月(最終)
暖簾 (EU過料引当分を含む)	1,100	630	1,094
無形固定資産	----	994	831
営業費用償却される 資産総額(+)	1,100	1,624	1,925
繰延税金負債 (x 30%) (当期利益での戻し)	----	298	249
総額 (+)	1,100	1,326	1,676
20年間の 平均償却額	55	66.3	83.8

金額はいづれも、2006年6月末の償却開始時点の金額。
各期の償却費計上は、都度その期間の円換算レートにて行う。

< 参考 > 暖簾、無形固定資産の項目と償却年数

暖簾	償却年数
暖簾	20

無形固定資産の項目	償却年数
Brand	20
Know-how	10
Customer Relationship	1 ~ 20
Developed technology	7 ~ 15
Other Brands	10
In-process R&D	10 ~ 15
License	11

無形固定資産は項目によって償却年数が異なる(1~20年)ため、年度償却額は初年度が最大で、順次減少する。FY11(2011年3月期)は190億円程度を想定。(1ポンド200円ベースでの当期利益への影響額。)

< 参考 > 暖簾、無形資産償却の業績への影響の変化

(単位:10億円)	07/3期 当初計画	07/3期 実績	08/3期 見通し
	PLK社 9ヶ月分	PLK社 9ヶ月分	PLK社 12ヶ月分寄与
円ポンド換算レート	¥210	¥225.7	¥215
暖簾償却費 (EU引当分を含む)	8.2	9.1	11.6
無形固定資産償却費	-	10.3	13.1
償却費合計 (+) (営業利益への影響)	8.2	19.5	24.7
税金負債の戻し (x30%)	-	+ 3.1	+3.9
合計 (+) (当期利益への影響)	8.2	16.4	20.8

(注) 無形固定資産は、項目によって1～20年で償却を行うため、次年度以降は順次償却費が減額される。
FY11(2011年3月期)では当期利益への影響を190億円程度と想定。



**< 参考 > 暖簾、無形資産償却の当期業績への影響の変化
(06年9月期中間決算説明会時の資料)**

(単位:10億円)	当初計画 (06年7月)		中間実績時の見直し (06年11月公表)(注2)	
	PLK社9ヶ月分	Pro Forma 1年換算 (注1)	PLK社9ヶ月分	Pro Forma 1年換算 (注1)
円ポンド換算レート	¥210		¥221.25	
暖簾償却費	8.2	11.0	4.1	5.5
無形固定資産償却費(注3)	-	-	12.2	16.3
償却費合計(営業利益への影響)	8.2	11.0	16.3	21.8
税金負債の戻し	-	-	+ 3.7	+ 4.9
合計(当期利益への影響)	8.2	11.0	12.6	16.9

(注1) Pro Forma 1年換算 = ピルキントン社を12ヶ月間連結処理した仮定での試算

(注2) 金額は9/末為替レートによる換算であり、以後、決算期末レートによって再度換算を行う。

(注3) 無形固定資産は、項目によって1~20年で償却を行うため、次年度以降は順次償却費が減額される。

ご注意

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

その要因の主なものとしては、主要市場(日本、欧米、アジア等)の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。